

# 第30回多文化間精神医学学会学術総会

—多文化共生社会を開くクロストーク—

会期 会期 2023年 11月 4日(土)・5日(日)

会場 大正大学 5号館・7号館  
〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨3丁目20-1

会長 | 桂川 修一 東邦大学医療センター佐倉病院 メンタルヘルスクリニック 教授

副会長 | 秋山 剛 NTT東日本関東病院

事務局長 | 前田 隆光 東邦大学医療センター佐倉病院 産業精神保健・社会復帰支援センター

第30回

# 多文化間精神医学会学術総会

プログラム・抄録集

<テーマ>

## 多文化共生社会を開くクロストーク

The crosstalk opening the door to multicultural symbiotic society

会 期 **2023年11月4日(土)・5日(日)**

会 場 **大正大学 5号館・7号館**  
〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨 3-20-1

会 長 **桂川 修一** 東邦大学医療センター 佐倉病院 メンタルヘルスクリニック 教授

副 会 長 **秋山 剛** NTT 東日本関東病院

事務局長 **前田 隆光** 東邦大学医療センター 佐倉病院 産業精神保健・社会復帰支援センター

# 目次

---

## 第30回 多文化間精神医学会学術総会 プログラム・抄録集

### ご挨拶

第30回多文化間精神医学会学術総会 会長 桂川 修一 .....	1
(東邦大学医療センター 佐倉病院 メンタルヘルスクリニック 教授)	

大会組織 .....	2
会場案内 .....	3
日程表 .....	4
会場フロア案内図 .....	7
参加者へのご案内 .....	8
発表・進行についてのご案内 (座長・演者の皆様へ) .....	11
次回学術総会のご案内 .....	13
プログラム .....	15
<b>抄 録</b>	
会長講演 .....	35
副会長講演 .....	36
基調講演 .....	38
特別講演 .....	40
教育講演 .....	42
シンポジウム .....	43
一般演題 .....	71
ラウンドテーブルディスカッション .....	93
2023 年度 多文化間精神医学会賞 .....	103
協賛 (寄附) 団体 .....	107
協賛 (広告) 企業一覧 .....	107

## ご挨拶



第30回多文化間精神医学会学術総会

会長 **桂川 修一**

(東邦大学医療センター佐倉病院 メンタルヘルスクリニック)

本学会の設立30周年を迎え記念となる学術総会にご参加いただき、まことにありがとうございます。

今年は世界的な猛暑のなか、カナダの森林火災、ハワイの台風による火災、アフガニスタンの大規模地震、リビアの洪水などの自然災害が続きました。新型コロナウイルスの流行はいまだ収束に至らず、ウクライナにおける戦火も止まないままで、国際間の往来が活発となっても時代の閉塞感は払拭できていないように感じます。このような世情のなかで未来について私たちは何を思い、行動するのかを自由に討論することを狙いとしました。

これまで学会が扱ってきたテーマに加えて、若手研究者による企画、メンタルヘルスの国際的支援を重視して内容の充実を図りました。おかげさまで、バラエティに富むシンポジウム7題、パネルディスカッション、ワークショップに加えて、ラウンドテーブル・ディスカッション3題を組むことができました。また一般演題も23題の申し込みがあり、どれも魅力あるテーマです。基調講演、特別講演、教育講演は国際的にご活躍の先生がたにご講演いただくこととなっており、文化人類学と海外の医療事情を学び、皆さまの研究や診療活動を深めていただければ幸いです。

開催する2日間にわたり参加者の活発な意見交換を通じて、新たなテーマが見えてくることを期待しています。

## 第30回 多文化間精神医学会学術総会 **大会組織**

---

### ■ 会 長

桂川 修一 東邦大学医療センター佐倉病院 メンタルヘルスクリニック

### ■ 副会長

秋山 剛 NTT 東日本関東病院

### ■ 事務局長

前田 隆光 東邦大学医療センター佐倉病院 産業精神保健・職場復帰支援センター

### ■ プログラム委員 (50 音順)

秋山 剛 NTT 東日本関東病院

阿部 裕 明治学院大学／四谷ゆいクリニック

鵜川 晃 大正大学 社会共生学部

江川 緑 東京工業大学大学院

大塚 公一郎 自治医科大学看護学部

岡田 和史 海辺の杜ホスピタル

桂川 修一 東邦大学医療センター佐倉病院 メンタルヘルスクリニック

北中 淳子 慶應義塾大学 文学部／社会学研究科

倉本 英彦 歌舞伎町メンタルクリニック

駒橋 徹 特定医療法人清和会 鹿沼病院

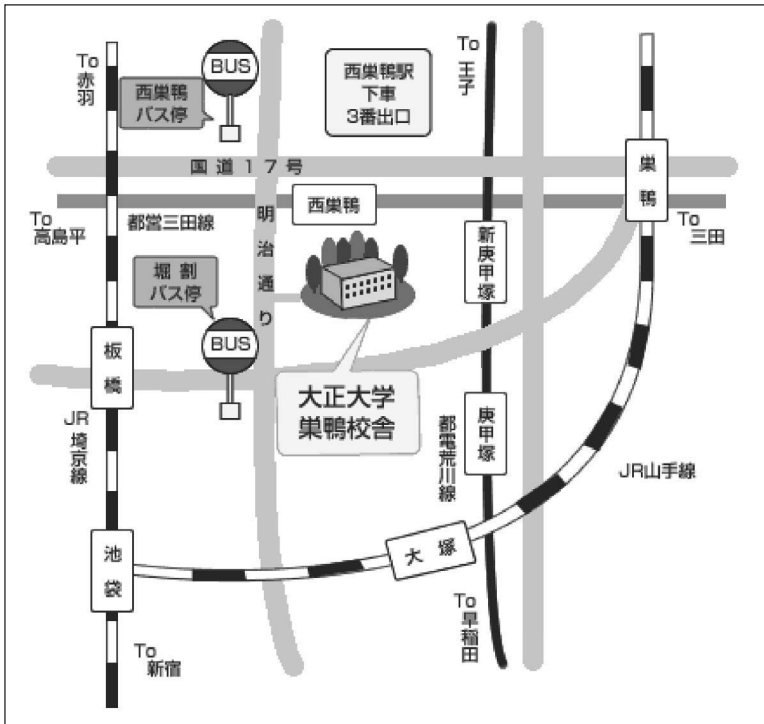
鈴木 満 中外製薬株式会社

中村 敬 東京慈恵会医科大学附属第三病院 精神神経科

野口 正行 メンタルセンター岡山 (岡山県精神保健福祉センター)

村上 裕子 新東工業株式会社

# 会場案内

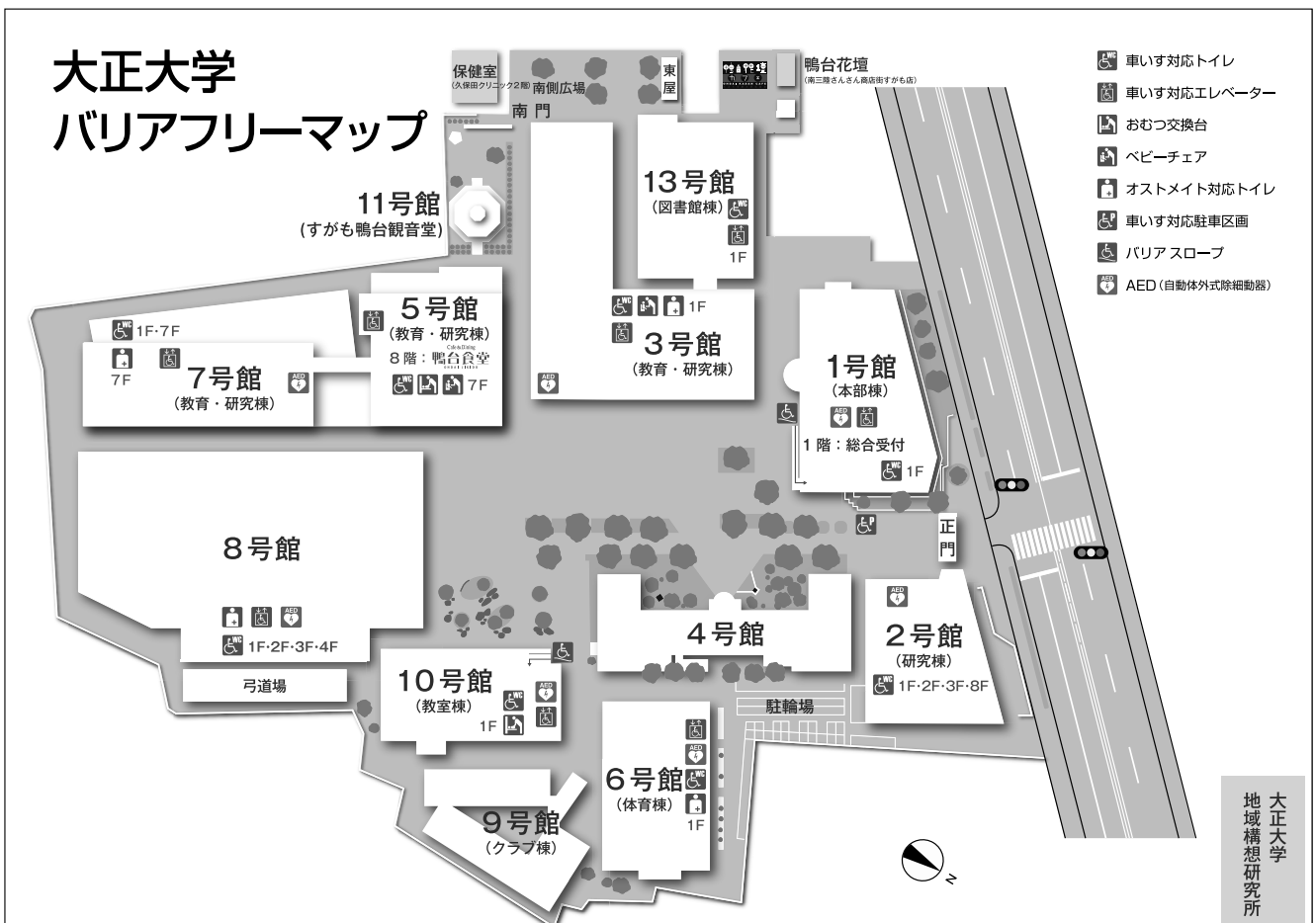


## 【電車をご利用の場合】

- 都営地下鉄三田線
  - ・・・西巣鴨駅下車 A3 出口 徒歩 2分
- JR 埼京線
  - ・・・板橋駅東口下車 徒歩 10分
- 都電荒川線
  - ・・・庚申塚駅又は新庚申塚駅下車 徒歩 7分

## 【バスをご利用の場合】

- 池袋駅東口から都バス
  - ・・・堀割バス停下車 徒歩 2分
- 6 番乗り場 西新井駅前行き、北車庫前行き、  
新田一丁目行き
- 7 番乗り場 浅草雷門南行き
- 12 番乗り場 とげぬき地蔵前行き
- 13 番乗り場 浅草寿町行き



# 第30回 多文化間精神医学会学術総会 日程表

11月3日(金)

	【第一会場】 531教室	【第二会場】 551	7号館 8階フロア
9:00			
10:00			
11:00			
12:00			
13:00			
14:00			
15:00			
16:00			
17:00			16:30-18:00 編集委員会 (遠隔での参加可)
18:00			18:00-20:00 評議員会 (遠隔での参加可)
19:00			
20:00			
21:00			

# 第30回 多文化間精神医学会学術総会 日程表

## 11月4日(土) 学会第1日目

	第一会場	第二会場	第三会場	第四会場
	531教室	551教室	552教室	553教室
	8:55-9:00 開会式			
9:00	9:00-10:00 基調講演(遠隔方式) 「ケア：世界のメンタルヘルスに対する文化精神医学と医療人類学の貢献」 (座長) 江口重幸・北中淳子 (演者) アーサー・クラインマン			
10:00				
11:00	10:10-12:10 シンポジウム1 「それぞれの治療文化から臨床的リズム論を再考する」 (座長) 近藤 伸介 (演者) 田中 伸一郎 杉林 稔 塩路理恵子 清水加奈子 阿部又一郎	10:10-12:10 シンポジウム2 「若者のメンタルヘルス 国際比較から」 (座長) 東畑開人 北中淳子 (演者) 榎原克哉 蓮澤 優 日野 映 (コメンテーター) 斎藤 環	10:10-11:25 一般演題(1) 「精神病理学」 (座長) 野口正行	
12:00			11:25-12:25 一般演題(2) 「在日外国人の医療」 (座長) 林 偉明	
13:00				
13:00	13:00-13:40 会員総会 (司会) 桂川修一・駒橋 徹			
14:00	13:40-14:10 学会賞授与式 受賞記念講演 (司会) 桂川修一			
14:00				
15:00	14:20-15:20 特別講演 「グローバルな多文化共生社会における/CDミック対策」 (座長) 駒橋 徹(清和会 豊沼病院) 演者 國井 修(グローバルヘルス技術振興基金CEO)			
16:00	15:30-17:30 シンポジウム3 「クリニカル・マンガイアトリー——マンガを通じて現代と精神科臨床を考える」 (座長) 小林聡幸 杉林 稔 (演者) 今村弥生 田中伸一郎 西依 康 斎藤 環	15:30-17:30 シンポジウム4 「医療通訳の課題と展望」 (座長) 阿部 裕 (演者) 白井 優 岩木エリーザ 松野勝民 中牟田和彦	15:30-16:30 一般演題(3) 「感染症にかかわる国際支援」 (座長) 上里彰仁	15:30-18:00 ラウンドテーブル・ディスカッション 1 27回多文化間精神保健専門アドバイザー資格認定研修会 「なぜ臨床に文化が必要なのか?—臨床人類学入門」 (企画) 多文化臨床・研究委員会 (座長) 東畑開人 北中淳子 鶴川 晃 (演者) 江口重幸 近藤伸介 鈴木航太 野口正行 村上裕子
17:00			16:30-18:00 一般演題(4) 「医療・介護サービスの国際化」 (座長) 浅井逸郎	
18:00	精：日本精神神経学会 精神科専門医制度の単位付与対象セッション			
19:00				
20:00			18:30-20:30 懇親会(50名予約制) ドーブルウヅ池袋(会場から徒歩22分) (司会) 前田隆光	
21:00				



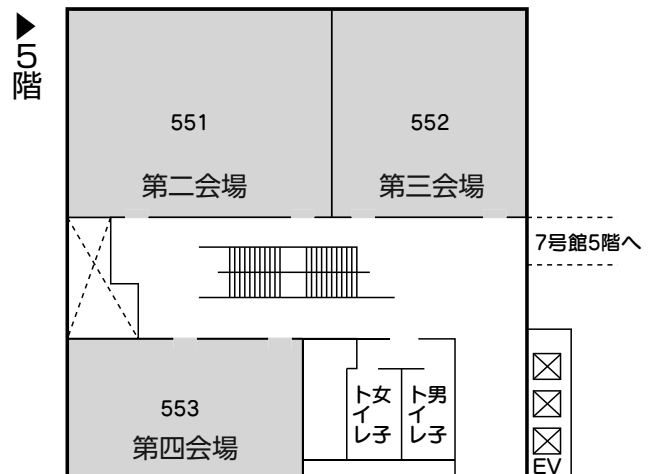
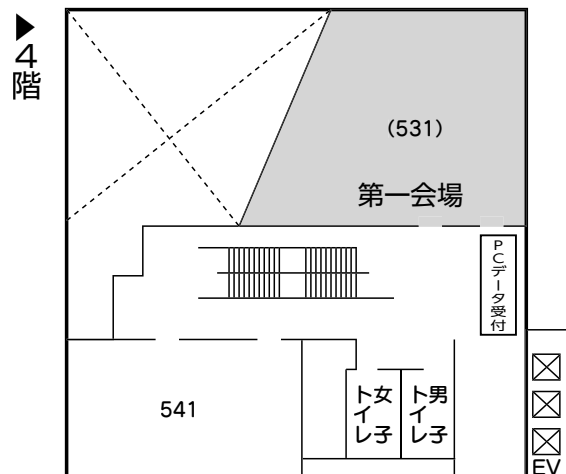
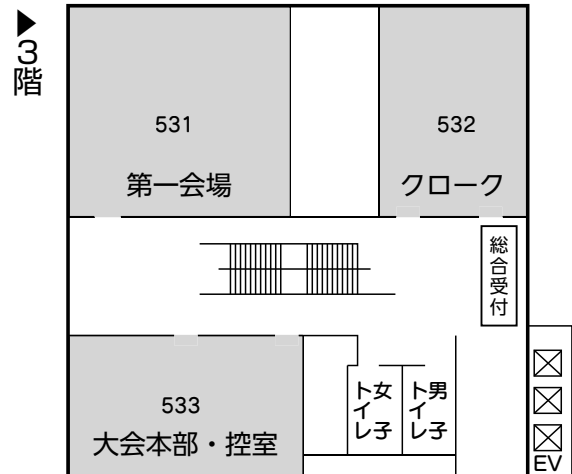
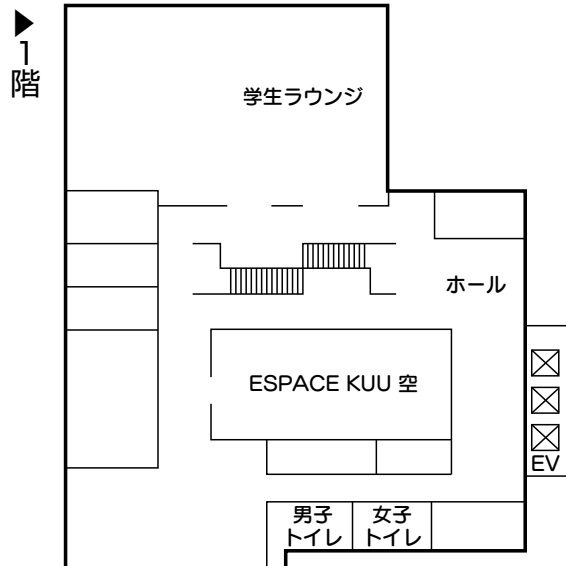
# 第30回 多文化間精神医学会学術総会 日程表

## 11月5日(日) 学会第2日目

	第一会場 531教室	第二会場 551教室	第三会場 552号室
9:00	9:00-10:00 教育講演(遠隔方式) 「多文化主義の先進社会に学ぶ小児精神科医療の実践」 (座長) 桂川 修一 (演者) エモン睦子		
10:00	10:05-12:05 シンポジウム5 「医療におけるメタバースの可能性」 (座長) 駒橋 徹 虎 一真 (演者) 寺田 哲 虎 一真 早川智美 福井健人	10:05-12:05 パネルディスカッション 「日本で生活するベトナム人元留学生Aの居場所とメンタルヘルスの課題」 (座長) 手塚千鶴子 (演者) 岡本百合 鈴木一代 山内浩美 石橋道子	10:05-12:05 ラウンドテーブル・ディスカッション 2 「難民・避難民の急増に対してメンタルヘルスの専門家はどう立ち向かうべきか」 (座長) 浅井逸郎 鶴川 晃 (演者) 上里彰仁 花岡晋平 秋山 剛 石川美絵子
12:00			
13:00	13:00-15:00 シンポジウム6 「精神疾患に浸透する宗教—多文化間精神医学としての宗教精神病理学—」 (座長) 小林聡幸 大塚公一郎 (演者) 小林聡幸 深尾憲二郎 佐藤晋爾 小島秀吾	13:00-13:30 会長講演 「多文化間精神医学から Global Mental Health への貢献」 (司会) 大橋敏子 (演者) 桂川修一 13:30-14:00 副会長講演 「私の多文化間精神医学」 (司会) 井上孝代 (演者) 秋山 剛 14:05-15:05 一般演題(5) 「異文化適応」 (座長) 湯浅 紋	13:00-14:30 ラウンドテーブル・ディスカッション 3 「留学生支援における現状と課題の共有—多文化理解と多職種連携強化のために」 (司会・話題提供) 渡辺暁里 (話題提供) 佐々木清子
14:00			
15:00			
16:00	15:10-17:10 シンポジウム7 在留邦人支援委員会・JAMSNETメンタルヘルスネットワーク共同企画 「海外邦人メンタルヘルス支援の世界展開に向けて」 (座長) 鈴木 満 村上裕子 (演者) パーンズ亀山静子 吉國泰代 鈴木 満 嶋崎恵子	15:10-17:10 ワークショップ 「多文化間カウンセリングワークショップ入門」 (講師) 湯浅 紋 奥田真衣	
17:00	17:10-17:15 閉会式		
18:00	精：日本精神神経学会 精神科専門医制度の単位付与対象セッション		

# 会場フロア案内図

## 5号館（教育・研究棟）



※ 1階 学生ラウンジで飲食が可能です。

〔 2,6,7,8階への立ち入りはお控え  
いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。 〕

# 参加者へのご案内

## 開催形式

本学会は現地開催のみとなります。

## 参加登録

事前にオンラインにて参加登録をお願いしております。

【オンライン登録 + 参加費の支払い】をもって登録完了となります。

- ・ 締切 2023年11月3日（金）正午まで
- ※締切後は、会場受付での当日登録となります。

## 参加費

参加区分事前登録当日登録

参加区分	事前参加登録	事前参加登録以後
医師（学会員）	10,000 円	11,000 円
医師（非会員）	10,000 円	11,000 円
医師以外（学会員）	5,000 円	6,000 円
医師以外（非会員）	5,000 円	6,000 円
当事者および学生	1,000 円	1,000 円
懇親会	事前申し込み先着 50 名 5,000 円 日時：11月4日（土） 18:30～20:30 会場：dopelounge 池袋（豊島区東池袋 1-35-3 センタービル B1）	

## 参加費お支払い方法

大会ホームページ「参加登録ページ」「参加登録バナー」よりオンライン登録にて、クレジットでのお支払い、または銀行振込が選択できます。

## 参加受付

受付時間：2023年11月4日（土） 8：30～17：00

2023年11月5日（日） 8：30～16：30

場 所：大正大学 5号館 3階 「総合受付」

※マイページから、当日は参加登録完了メール（QRコード）を参加受付で提出してください。参加証をお渡しいたします。

※大会ホームページの参加登録ページより事前に参加登録をお済ませのうえご来場ください。

※当日、参加登録を希望される方は、ご自身のスマートフォン、PCにてWeb登録ください。

## 懇親会

事前申し込み先着 50 名 5,000 円

日時：11月4日（土） 18:30～20:30

会場：dopelounge 池袋（豊島区東池袋 1-35-3 センタービル B1）

# 参加者へのご案内

## 学会事務局受付

会期中、総合受付付近に学会デスクを設置いたします。学会への入会を希望される方はお立ち寄りください。

事前の入会申込方法につきましては、学会 WEB ページをご覧ください。

<https://www.jstp.net/JOIN.htm>

## プログラム・抄録集

学会会員の方は、当日受付にて「プログラム・抄録集」をお渡しいたします。

また、大会ホームページより「プログラム PDF」の閲覧も可能となります。

(2023年11月3日～)

非会員の方には、別途受付にて販売をいたします。(1冊1,000円)

数に限りがございますので、売り切れの場合はご了承ください。

## 単位取得

### (1) 日本精神神経学会 精神科専門医制度

取得単位数：単位付与対象セッションの受講で3単位 (ポイント対象学会のB群)

出席を確認し運営事務局より日本精神神経学会事務局へ一括で申請します。

単位付与対象セッションについてはプログラムをご確認ください。

## 学会行事

- 1) 編集委員会……11月3日(金) 16:30～
- 2) 評議委員会……11月3日(金) 18:00～
- 3) 総会・学術賞授賞式……11月4日(土) 13:00～14:10 第1会場
- 4) 第27回多文化間精神保健専門アドバイザー 資格認定研修会  
……11月4日(土) 15:30～18:00 第四会場

## その他

### ・学会本部

大正大学 5号館 533教室

### ・クローク

日時：11月4日(土) 8:45～18:10

11月5日(日) 8:45～17:30

場所：大正大学 5号館 532教室

### ・呼び出し・メッセージ

会場内での呼び出しは対応ができません。

### ・休憩スペース

1階 学生ラウンジ

## 参加者へのご案内

---

- ・ 携帯電話・スマートフォンの使用

会場内での携帯電話・スマートフォンの通話は他の参加者の迷惑となりますのでご遠慮ください。

ご入場の際は、マナーモードに設定してください。

- ・ 喫煙

学内は全館禁煙です。

- ・ Wi-Fi 環境はございません。

- ・ 禁止事項

発表内容の写真撮影（カメラ付き携帯電話も含む）、ビデオカメラ等の持込ならびに撮影、録画、録音はご遠慮ください。（必要な場合は、必ず発表者の許可を得てください。）

- ・ 休憩スペース

1階 学生ラウンジ

# 発表・進行についてのご案内（座長・演者の皆様へ）

## 1. 座長・司会の先生方へ

セッション開始 15 分前までに、セッション会場前方「次座長席」「次演者席」にご着席ください。

## 2. 演者の先生方へ

### 発表データについて

大正大学 5号館 4階に PC 受付を設置します。

- 1) 発表はすべて口演発表です。
- 2) USB メモリに、発表データを保存しお持ち込みください。
- 3) 講演開始 30 分前までに PC 受付にて発表データの試写と受付を済ませてください。  
PC 持ち込みの方も、30 分前までに PC 受付へお越しください。
- 4) PowerPoint の「発表者ツール」機能は使用できません。
- 5) PC 受付のパソコンは台数が限られております。
- 6) Macintosh PC のご使用を希望される場合は、パソコン本体と接続ケーブルをご自身で必ずお持ちいただくようお願いいたします。

受付パソコンを独占しての長時間のデータ修正はご遠慮願います。

学会上ではレイアウト修正のみとし、データ修正等は事前に済ませてから PC 受付へお越しください。

※学会終了後、お預かりした発表データは大会事務局にて責任を持って破棄いたします。

### 発表データ作成要項

- ① データ形式：PowerPoint
- ② OS：Windows 10・macOS
- ③ サイズ：16：9 推奨

### 発表時間

#### ・一般演題

1 演題につき発表 10 分 + 質疑応答 5 分

#### ・シンポジウム

個々の発表時間を含め進行は座長の先生にご一任いたします。

いずれも時間厳守をお願いいたします。

総合討論をご予定の場合は事前に事務局にお知らせください。

### 講師打ち合わせ

講師控室は、大会本部（5号館 533 教室）と兼用となります。

登壇者の先生方はご講演またはご発表の準備、打ち合わせ等にご利用ください。

第四会場（5号館 533 教室）も 11 月 4 日（土）15:00～18:00 ラウンドテーブル・ディスカッション開催時間を除きご利用できます。

## 発表・進行についてのご案内（座長・演者の皆様へ）

---

### すべての表者の方へ（注意事項）

〈COI（利益相反）に関する開示について〉

発表スライドの最初または最後にCOIに関する情報を開示してください。発表時に口頭での説明は不要です。フォーマットのダウンロードは大会 HP「座長・発表者へのご案内 = COI（利益相反）に関する開示について =」をご参照ください。

〈発表にあたっての倫理性への配慮〉

人を扱う研究については、世界医師会によるヘルシンキ宣言（その改訂版を含む）および日本精神神経学会の「臨床研究における倫理綱領」等に記載された倫理規約に則し、発表にあたっては十分なインフォームド・コンセントを得て、プライバシーに関する守秘義務を遵守し、匿名性を保持して、個人が特定できないように十分配慮をしてください。

## 次回学術集会のご案内

### 第31回多文化間精神医学会学術総会開催のご案内

#### 【学会開催概要】

**会 期：**2024年11月23日（土）、24日（日）

**会 場：**国際医療福祉大学成田キャンパス  
〒286-8686 千葉県成田市公津の杜4-3  
（京成本線「公津の杜」駅前）

**テーマ：**つなぐ文化、つながる人々 Connecting culture, connected people

**会 長：**上里 彰仁（国際医療福祉大学基礎医学研究センター）

**副 会 長：**中里 道子（国際医療福祉大学医学部精神医学）

**事務局長：**市川 佳居（レジリエ研究所・国際EAP協会）

**連 絡 先：**国際医療福祉大学基礎医学研究センター  
Tel. 0287-24-3000（代表）



# プログラム

---

会長講演

副会長講演

基調講演

特別講演

教育講演

シンポジウム

一般演題

パネルディスカッション

ワークショップ

ラウンドテーブルディスカッション

**会長講演** 11月5日㊥ 13:00 - 13:30 第2会場 [551教室]

**「多文化間精神医学から Global Mental Health への貢献」**

司会：大橋 敏子（京都大学 総合人間学部）

演者：桂川 修一（東邦大学医療センター佐倉病院 メンタルヘルスクリニック）

**副会長講演** 11月5日㊥ 13:30 - 14:00 第2会場 [551教室]

**「私の多文化間精神医学」**

司会：井上 孝代（明治学院大学名誉教授、国際平和研究所研究員、マクロ・カウンセリングセンター（MCC）代表）

演者：秋山 剛（NTT 東日本関東病院）

**基調講演** 11月4日㊥ 9:00 - 10:00 第1会場 [531教室]

**「ケア：世界のメンタルヘルスに対する文化精神医学と医療人類学の貢献  
A Contribution of Cultural Psychiatry and Medical Anthropology to  
Global Mental Health」**

座長：江口 重幸（精神医学研究所附属東京武蔵野病院）

北中 淳子（慶應義塾大学 文学部／社会学研究科）

演者：アーサー・クラインマン

（ハーバード大学医学部グローバルヘルス&社会医学 / 精神医学、ハーバード大学人類学部）

**特別講演** 11月4日㊥ 14:20 - 15:20 第1会場 [531教室]

**「グローバルな多文化共生社会におけるパンデミック対策」**

座長：駒橋 徹（特定医療法人清和会 鹿沼病院）

演者：國井 修（公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund））

**教育講演** 11月5日㊥ 9:00 - 10:00 第1会場 [531教室]

**「多文化主義の先進社会に学ぶ小児精神科医療の実践  
Pratique en pédopsychiatrie ; Apprendre d'une société  
multiculturelle évoluée」**

座長：桂川 修一（東邦大学医療センター佐倉病院 メンタルヘルスクリニック）

演者：エモン 睦子（モントリオール大学付属サントジュスティエヌ病院 精神神経医学部門）

# シンポジウム 1 11月4日(土) 10:10-12:10 第1会場 [531教室]

## 「それぞれの治療文化から臨床的リズム論を再考する」

座長：近藤 伸介 (東京大学 医学部附属病院 精神神経科)

### 【趣旨・狙い】

精神医療やケアの現場は、さまざまな次元のリズムが絡みあう場である。そこでは、施療やケアする者/される者というヒューマンな関わりだけでなく、施設の時間の流れを規定したり生活習慣の管理にも関わるノンヒューマンな対象や諸要素も作用する。20世紀後半を通じて発展した精神疾患に関する現象学的考察や時間生物学的な先行研究の蓄積を経て、コロナ禍の前後より、本邦でもリズムに再着目する領域横断的な動きがみられている。例えば、精神分析学の立場から十川(2021)や北山(2021)がリズムの意義を再認している一方で、村上(2021)は現象学的考察に基づくポリリズム論を、そして美学者の伊藤(2013/2021)は行為の法則化としてのリズム論を提唱してきた。ロックダウン中の経験からは、日常生活で「音楽を聴くこと」の意義も見直されている(Fenebergら, 2023)。

今回の企画では、それぞれの臨床の場で実務を積み重ねてきた精神科医が集まって、リズムの概念や意義について再考する。リズムとその破断、それに伴う感情のカオス現象や、生活習慣のデジタル管理化による過剰な秩序化といった問題意識は、今日の精神医学的診断や治療アプローチのみならず、リカバリー空間やケアの仕組みを捉え直すことにもなるだろう。コロナ禍当初に公衆衛生の専門家たちから提唱された「新しい生活様式」は、今こそ、多文化共生社会における新たな生の規範の創造として俎上にのせられる課題と考えられる。「人間の生活リズムが速度に直面している」(Virilio)ならば、精神医療もその例外ではない。ノンヒューマンな環境に囲まれた個人/集団の持つ固有なリズムと共鳴する、人間的な臨床リズム論を構築する契機としたい。

### 1-1 精神科面接におけるリズムへの着目とタクトの振り方

田中 伸一郎 東京藝術大学保健管理センター

### 1-2 暦時間から臨床的リズムについて考える

杉林 稔 愛仁会高槻病院 精神科

### 1-3 外界に即応することで生まれるリズム —森田療法の経験から—

塩路 理恵子 東京都立大学 健康福祉学部

### 1-4 喪のプロセスと時の事象 —ユング心理学の観点から—

清水 加奈子 六番町メンタルクリニック

### 1-5 双極症と社会リズム理論の啓発が指し示すもの

阿部 又一郎 有隣会伊敷病院

# シンポジウム 2 11月4日(土) 10:10-12:10 第2会場 [551教室]

## 「若者のメンタルヘルス 国際比較から」

座長：東畑 開人（白金高輪カウンセリングルーム）

北中 淳子（慶應義塾大学 文学部／社会学研究科）

### 【趣旨・狙い】

多文化間専門アドバイザー資格研修会でもある、本ラウンドテーブル・ディスカッションでは、精神医学・臨床心理学・医療人類学を含むさまざまな立場から、なぜ臨床を実践するにあたって「文化」が必要なのかについて皆で考えてみたい。多文化臨床・研究班のメンバーやオーディエンスも含めて、「多文化」の視点からアプローチし、「文化的感受性」や「構造的な能力」といった概念を臨床に採り入れることで、どのように新たな視座が得られるのかについてディスカッションを行いたい。

### 2-1 大学の学生相談・カウンセリングにおける「心理学化」の考察 —心理職を対象としたインタビュー調査から

榎原 克哉 慶應義塾大学大学院 社会学研究科

### 2-2 学校医から見た大学生のメンタルヘルス

蓮澤 優 九州大学 キャンパスライフ・健康支援センター

### 2-3 現代の若者にとって「欲望」とは何か

日野 映 慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート

### コメンテーター

齋藤 環（筑波大学医学医療系）

# シンポジウム 3 11月4日(土) 15:30-17:30 第1会場 [531教室]

## 「クリニカル・マンガイアトリー —マンガを通じて現代と精神科臨床を考える」

座長：小林 聡幸 (自治医科大学 精神医学講座)

杉林 稔 (愛仁会高槻病院 精神科)

### 【趣旨・狙い】

半世紀前、マンガは下らないものの代表格で、有害視すらされていたが、今や日本を代表する文化コンテンツと見做されるようになった。常に社会規範からの批判の目にさらされつつも、先鋭的な才能が集って表現を花開かせる場となっているとあって過言ではなからう。それゆえマンガは時代の精神を反映し、時に先取りし、社会のありさまを、その歪みをデフォルメして映し出す。また近年、漫画の登場人物は発達障害やパーソナリティ障害などの精神病理を抱えた人物造形がなされていることが少なくなく、精神疾患がどのように人口に膾炙しているかという試験紙ともなっている。マンガ作家の洞察力はときに精神障害の本質をついた描写を見せ、治療的示唆に満ちたプロットを描き出すこともある。2019年には第66回日本病跡学会でマンガの病跡学のシンポジウムが組まれ、マンガによって精神医学を解説するといった書籍は散見されるものの、マンガの解説本的なものではなくマンガそのものを精神医学的に扱った仕事はほとんど見られない。本シンポジウムでは、マンガ作者の精神病理と創造性という狭義の病跡学的なテーマではなく、マンガ(あるいはアニメ)という文化メディアで繰り広げられる表現を精神医学の視点から検討することを通じて現代の臨床的問題を浮き彫りにするとともに治療的示唆を求めて考察を試みてみたい。取り上げる作品は『チェンソーマン』『ゴールデンカムイ』『ブルーピリオド』『デッドデッドデーモンズデデデデストラクション』の見込みである。

### 3-1 マンガの精神医学——王道少年漫画で伝えるリカバリーとレジリエンス

今村 弥生 杏林大学医学部精神神経科学教室

### 3-2 「ブルーピリオド」に打ち勝つために必要な芸術家のレジリエンスについて

田中 伸一郎 東京藝術大学保健管理センター

### 3-3 デッドデッドデーモンズデデデデストラクションにみる今日の自我の概念、人格の概念

西依 康 自治医科大学 精神医学講座

### 3-4 チェンソーマンは何を欲望しなかったか

斎藤 環 筑波大学医学医療系

# シンポジウム 4      11月4日(土) 15:30 - 17:30 第2会場 [551教室]

## 「医療通訳の課題と展望」

座長：阿部 裕（四谷ゆいクリニック）

### 【趣旨・狙い】

今日、在留外国人は300万人に迫っている。そうした中、こころを病んだ外国人は、言語や文化が障壁となって、なかなか医療機関に受け入れてもらえない。かなり普及されていると考えられている英語でさえ、受け入れ困難な医療機関が多く、ましてや英語以外の言語の患者は通訳なしにほとんど受け入れてもらえない。

そこで、このシンポジウムでは、医療機関の医療通訳を使用した外国人受け入れについて、考えを述べてもらい、その課題と展望について議論する。まず、最初のシンポジストに、日本の外国人の精神医療の現状と医療通訳について総論的に話してもらおう。次に、実際に医療通訳の経験を持つ心理士に医療現場における問題点を語ってもらおう。

3番目に、医療通訳を派遣している派遣機関のコーディネーターに派遣システムとその問題点について発表してもらおう。最後に、パソコンを使ったインターネットテレビ電話通訳の実際と課題について話してもらい、4人のシンポジストに医療通訳の課題をまとめてもらい、日本における医療通訳の展望を行う。

#### 4-1 日本の精神科クリニックにおける外国人診療と医療通訳の立ち位置：現状と課題

白井 優      四谷ゆいクリニック

#### 4-2 精神医療領域における通訳者：ことばの通訳を超えて

岩木エリーザ 任意団体 CRIATIVOS - 保健プロジェクト / NPO 法人 ABC ジャパン

#### 4-3 外国人医療の現状と課題 ～ MIC かながわの活動を中心に～

松野 勝民      認定 NPO 法人 多言語社会リソースかながわ (MIC かながわ)

#### 4-4 医療通訳サービスの現状と生成 AI 技術による今後の外国人診療について

中牟田 和彦      株式会社東和エンジニアリング 東和通訳センター

# シンポジウム 5 11月5日 ⑩ 10:05 – 12:05 第1会場 [531教室]

## 「医療におけるメタバースの可能性」

座長：駒橋 徹 (特定医療法人清和会 鹿沼病院)  
虎 一真 (任意団体メタバース医療協創大学)

### 【趣旨・狙い】

Facebook が会社名を Meta に変更した頃からメタバースが世間の注目を集めるようになった。アバターを使ったコミュニケーションは、心理的安全性を高め自己開示を促進すると言われている。精神療法など精神医療に応用できるのかもしれない。自分でメタバースを使ってみると、表情が読めないことに対する不安感などがある一方で、リアルな身体感覚を覚えることもある。今回、メタバースを用いて様々な活動を行っている方々からお話を伺う。オンライン総合病院の構築を目指してメタバース診療や VR 治療を展開している方、メタバースを始め、多職種連携を目指しているいろいろなデジタルデバイスを用いている方、発達障害者へのソーシャルスキル訓練をメタバースで行っている方、不安障害への VR 治療アプリを開発している方である。その方々の話をまとめながら、メタバースが身体医療や精神医療においてどのように使えるのか、有効な方法なのかなどについて議論したいと思う。

### 5-1 医療におけるメタバースの可能性

寺田 哲 みしま痛み&リハビリクリニック

### 5-2 デジタルコンバージェンス「医療メタバースの未来」

虎 一真 任意団体メタバース医療協創大学

### 5-3 メタバースの匿名性を活用した発達障害キャリア塾の試み

早川 智美 北林厚生会 五条山病院 デイケアセンター

### 5-4 不安障害への VR 治療

福井 健人 株式会社魔法アプリ

# シンポジウム 6 11月5日 ㊦ 13:00 – 15:00 第1会場 [531教室]

## 「精神疾患に浸透する宗教—多文化間精神医学としての宗教精神病理学—」

座長：小林 聡幸 （自治医科大学精神医学講座）

大塚公一郎 （自治医科大学看護学部）

### 【趣旨・狙い】

「メディアも世間も宗教はタブーのまま……」。いわゆる「宗教2世」に取材した菊池真理子のマンガ『「神様」のいる家で育ちました』で作者が呟く台詞であるが、精神医学においても似たようなタブー意識が蔓延しているように感じる。近代社会は政治にしる科学にしる脱宗教を目指してきたといえるが、他方で信教の自由が批判をためらわせる。そのためか、宗教を臨床に利用しようというときには宗教擁護的な色彩ばかりが目につく。政治の世界をみればわかるように、「利用する」の隣には「利用される」があることに気がつかないかのように。精神医学が「宗教的なもの」と対峙するときに、単に科学を超えた崇高なるものといったステレオタイプな理解を超えて批判的な視点をも持たねがならないのではないかと考える。その意味で精神医療や精神病理現象における「宗教的なもの」を射程においた宗教精神病理学の再構築をめざし、われわれは2016年の日本精神神経学会と2021年の日本精神病理学会で宗教精神病理学のシンポジウムを開催した。そこでは「宗教精神病理学」と題しつつも、宗教学からの視点、臨床に導入されるスピリチュアリティの問題、精神療法における宗教的なものの関与など、いわば宗教という多文化現象の中で、広い観点から論点を求めていった。今回は満を持して、精神疾患における宗教を臨床に即して論じたい。統合失調症、気分障害、てんかんの事例などから宗教の問題を論じる予定である。

### 6-1 統合失調症における宗教の機能

小林 聡幸 自治医科大学 精神医学講座

### 6-2 てんかんと宗教性：体験と性格

深尾 憲二郎 帝塚山学院大学 人間科学部 心理学科

### 6-3 治療倫理の源泉としての宗教性

佐藤 晋爾 筑波大学 医学医療系 茨城県地域臨床教育センター

### 6-4 非定型精神病患者の宗教的病態における暴力の発動過程

小畠 秀吾 国際医療福祉大学 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 心理学科



# シンポジウム 7 11月5日 ㊦ 15:10 – 17:10 第1会場 [531教室]

## 在留邦人支援委員会・JAMSNET メンタルヘルスネットワーク共同企画 「海外邦人メンタルヘルス支援の世界展開に向けて」

座長：鈴木 満 (中外製薬株式会社)

村上 裕子 (新東工業株式会社)

### 【趣旨・狙い】

1980年代から世界中の邦人コミュニティに発生したボランティアベースのメンタルヘルス支援団体が消長を繰り返す中で、ニューヨークで設立された JAMSNET (Japanese Medical Support Network) の理念は徐々に世界各地に拡がり、2014年からは JAMSNET-World として連携が強化されつつある。当学会在留邦人支援委員会もまた JAMSNET と緊密な協力関係を継続しており、これまで JAMSNET 会員により多くの学会発表や論文投稿がなされてきた。JAMSNET-World では、新型コロナウイルスのパンデミックを契機にオンラインによる多拠点連携が進んでおり、2023年にはメンタルヘルス専門家によるサブグループ「JAMSNET-World メンタルヘルスネットワーク」の活動が始動する予定である。本シンポジウムでは、当学会創立以来30年間の海外邦人支援を振り返りながら、「JAMSNET-World メンタルヘルスネットワーク」との新たな関係作りと支援活動の世界展開について議論を深める。当学会と JAMSNET 双方に所属する下記のメンタルヘルス専門家がシンポジストとして登壇する。

### 7-1 JAMSNET-USA ニューヨーク邦人メンタルヘルスネットワーク

バーンズ 亀山 静子 ニューヨーク日本人教育審議会・教育相談室

### 7-2 シンガポールと他のアジア地域の在留邦人メンタルヘルス支援に関する報告 A report on Mental health support for Japanese residents in Singapore and other Asian countries

吉国 泰代 Healthway Japanese Medical

### 7-3 多文化間精神医学会と JAMSNET による海外邦人メンタルヘルス支援の歩み

鈴木 満 中外製薬株式会社

### 7-4 JAMSNET ドイツにおけるメンタルヘルス支援活動

嶋崎 恵子 JAMSNET ドイツ

**一般演題 1**

11月4日(土) 10:10 - 11:25 第3会場 [552教室]

**「精神病理学」**

座長：野口 正行 (岡山県精神保健福祉センター)

- 1-1 中動態、それは中井久夫と木村敏でどう違うのか、アートも参考に  
三脇 康生 仁愛大学人間学研究科 臨床心理学専攻
- 1-2 お夏清十郎の非中動態が壊されないようにしなければならない  
三脇 康生 仁愛大学人間学研究科 臨床心理学専攻
- 1-3 文化精神医学者としてみた精神科医中井久夫先生とスピリチュアルケア  
山田 和夫 横浜尾上町クリニック
- 1-4 神経精神分析—脳とフロイト的無意識の視点から—  
大橋 敏子 京都大学 総合人間学部
- 1-5 多文化臨床における Thure von Uexküll の状況円環と phantasy の視点について  
田村 雄志 桜通り心理療法オフィス

**一般演題 2**

11月4日(土) 11:25 - 12:25 第3会場 [552教室]

**「在日外国人の医療」**

座長：林 偉明 (千葉県精神保健福祉センター)

- 2-1 多文化クリニックにおける ADHD 診療の実際  
白井 優 四谷ゆいクリニック
- 2-2 朝鮮半島にルーツを持つ青年における異文化適応ギャップ評価項目の作成  
佐々木 三紗 早稲田大学大学院 人間科学研究科
- 2-3 正式雇用契約前の研修期間中に措置入院となり退院調整に難渋した一例  
西岡 未来 千葉県精神科医療センター
- 2-4 うつ状態を呈したイラン人患者一例の診療経験  
長谷川 千絵 獨協医科大学 精神神経医学講座

## 一般演題 3

11月4日(土) 15:30 - 16:30 第3会場 [552教室]

### 「感染症にかかわる国際支援」

座長：上里 彰仁 (国際医療福祉大学 基礎医学研究センター)

- 3-1 感染症という病と日本の文化：HIV から COVID-19 までの感染症への人々の適応を日本文化や価値観の視点を交えて検討する  
矢永 由里子 西南学院大学大学院 人間科学研究科 臨床心理学専攻
- 3-2 COVID-19 パンデミック下における国立大学大学院留学生の休学、退学、死亡の状況について  
丸谷 俊之 お茶の水女子大学 保健管理センター
- 3-3 コロナ規制緩和後のシンガポール在留邦人の抑うつと不安に関する調査研究—孤独感と男女差、当地独自のストレス要因に注目して—  
原田 舞香 シンガポール日本人会クリニック
- 3-4 在外邦人の多様なニーズに応じる包括的支援に向けた試み—「ゆいグローバルネット」における実践からの検討—  
圖子田 優子 ゆいグローバルネット

## 一般演題 4

11月4日(土) 16:30 - 18:00 第3会場 [552教室]

### 「医療・介護サービスの国際化」

座長：浅井 逸郎 (医療法人社団ハートクリニック)

- 4-1 日本で働くベトナム人看護師・介護士・介護留学生の認知症高齢者に対する認識  
三浦 藍 四條畷学園大学 看護学部
- 4-2 異文化圏における精神患者への看護の考え方の比較検討 (その2) ~インドネシアと日本の精神科看護師の比較からみた考え方の特徴~  
川村 道子 宮崎県立看護大学 看護学部
- 4-3 多文化共生社会における外国人等高齢者への訪問介護・看護サービスに関する課題とニーズ  
上里 彰仁 国際医療福祉大学 基礎医学研究センター

- 4-4 非正規滞在者の入国管理局被収容体験が及ぼす心理的影響  
中野 稚子      ポラリスカウンセリングオフィス
- 4-5 Metacultural psychiatry の構想からみた宗教と狂気の区別について  
大塚 公一郎      自治医科大学看護学部
- 4-6 難民の精神科医療と生活の支援に関する一考察  
桂川 修一      東邦大学医療センター佐倉病院 メンタルヘルスクリニック

## 一般演題 5

11月4日(土) 14:05 - 15:05 第2会場 [551教室]

### 「異文化適応」

座長：湯浅 紋      (ポラリスカウンセリングオフィス)

- 5-1 成人日本人の異文化適応～母国再適応プロセスとその体験の肯定的影響について  
奥田 真衣      Polaris Counseling Office
- 5-2 適応障害と診断されたイラン出身男性らの「吐く」という行動の意味とは  
鶴川 晃      大正大学 社会共生学部 公共政策学科
- 5-3 文化的背景の違い、言語的コミュニケーションの違いによって対応に  
苦慮した在日日系人女性の一例  
中嶋 希和      東邦大学医療センター佐倉病院 メンタルヘルスクリニック
- 5-4 子育てを通し、帰国子女としての過剰適応の苦悩を再体験した不安障害の一例  
端 こず恵      東邦大学医療センター佐倉病院 メンタルヘルスクリニック

## パネルディスカッション 11月5日 ⑩ 10:05 – 12:05 第2会場 [551教室]

### 「日本で生活するベトナム人元留学生 A の居場所とメンタルヘルスの課題」

座長：手塚千鶴子（慶應義塾大学）

#### 【趣旨・狙い】

現在、日本では、様々な文化的背景を持つ外国人が増加しており、医療、教育、司法、行政等の機関においても、多言語対応、多文化理解、人権への配慮が重視されている。そのような配慮や支援のあり方は、在日外国人のメンタルヘルスに大きく影響していると考えられる。在日留学生に着目すると、アイデンティティ形成の重要な時期である、青年期から成人期初期にかけて来日する、多くの留学生にとって、留学期間における経験は、その後の生き方や精神的健康に与える影響が大きいと考えられることから、留学生のメンタルヘルスの予防対策は重要である(大橋, 2009)。留学生のなかには、既に予防期を通り越し(危機)介入時期となっており、初めてカウンセリングや精神科治療を訪れる人もいる。そのような事態を回避するための対策のひとつとして、留学生が孤立することなく、日々の生活の中で社会に繋がることが可能な場所、すなわち、「居場所」や「居場所づくり」が重要になるだろう。精神科医の北山(1993)も、居場所作りの大切さについて述べている。

平成 29 年に特集でまとめられた、内閣府(現こども家庭庁)による「子供・若者の意識に関する調査」では、若者の居場所確保・居場所作りの重要性が強調されている。それは、日本人に限った事ではなく、留学生においても同様と考えられる。居場所は、日本の概念であるが、留学生も感覚的に理解できる概念であり(Ishibashi, 2019)、また、精神的健康や文化的アイデンティティとの深い関係が明らかになっている(Suzuki, et.al. 2022)。

近年は、短期・中期・長期留学プログラム、複数の大学同時の修学プログラム、日本語以外の言語(英語・中国語など)で受講可能な学部や研究科が増え、留学スタイルの複雑化にともない、留学生も多様化している。来日前に既に他国での留学経験をもつ学生もいれば、来日が初めての海外生活となる人もいる。また、経済急成長が著しい国では、海外留学に送り出す家庭が急増しており、親世代が夢見た海外での成功を期待されて来日する学生も少なくない。

本パネルディスカッションでは、多様な留学経験者のなかから、近年、増加しつつある留学後も日本にとどまり、就業している事例について石橋道子が発表する。事例は、ベトナム出身で、両親の期待を背負い、複数の国での留学生活後、日本での大学院を修了し、日本で就労する A (元留学生) である。留学生として、ベトナムから海外(日本を含む)への複数の移動を経験してきた A が、それぞれの滞在地において、どのような体験をしてきたかを紹介し、その時々々のメンタルヘルスの状態や居場所に着目する。その際、移動にともなう、居場所の変容、すなわち、居場所の喪失や再発見(獲得)などと、精神的健康状態、さらに支援の有無について言及する。事例 A は、現在、日本に居住していることから、特に、日本での留学体験や就労後の生活に焦点をあて、留学中の支援のありかたや、今後、日本社会で生きていく上での課題や支援の手立て、さらに、日本社会における体制づくり(居場所作り)への期待等の視点から議論したい。

パネリストは、メンタルヘルス部門で、留学生等の精神医学領域の問題への支援をされている、岡本百合氏(精神医学)、国際結婚者やその子ども(国際児)の文化的アイデンティティ形成と居場所に着目している鈴木一代氏(発達社会心理学・比較文化精神病理学)、留学生を含む学生相談やハラスメント相談等の支援に従事されている、山内浩美氏(カウンセリング心理学・国際平和共生学)、それぞれのお立場から、事例 A について考察していただく。司会進行として、留学生のカウンセリングや心理的支援等に長年従事されてきた手塚千鶴子氏(多文化カウンセリング・異文化コミュニケーション学)にも、パネルディスカッションにご参加頂く。

演者：岡本百合 広島大学保健管理センター

鈴木一代 埼玉純真短期大学

山内浩美 広島大学ハラスメント相談室

石橋道子 広島大学保健管理センター

## ワークショップ 11月5日 ⑧ 15:10 – 17:10 第2会場 [551教室]

### 「多文化間カウンセリングワークショップ入門」

講師：湯浅 紋（ポラリスカウンセリングオフィス）

奥田 真衣（ポラリスカウンセリングオフィス）

#### 【趣旨・狙い】

多文化間カウンセリングとは「異なる文化的背景を持つ個人の間で行われるカウンセリング」と定義されています。多様化が進む社会の中で、多様な性の形や年齢差など、カウンセラーが自身と異なる文化を持つクライアントに出会う確率はどんどん増えています。本ワークショップでは、基礎的な多文化の概念やモデルを学ぶとともに、カウンセラーとは違う文化を持つクライアントさんのカウンセリングを行う際に必要な知識や能力について「入門編」と称して紹介します。

カウンセリングや心理臨床の場において多文化的な差を正しく扱う能力を「多文化コンピテンス」といいます。本ワークショップでは多文化間カウンセリングワークショップやゼミなどのコンピテンス獲得・向上の教育的機会を通じ、心理臨床家の職能がどのように向上するかを、指標の結果と併せてお伝えします。

本ワークショップはこの学術総会ではたびたび行っておりますが、以前お受けくださった方にも楽しんでいただける内容を心がけ、日々アップデートをしております。初めての方も、以前お受けくださった方も、奮ってご参加ください。

# ラウンドテーブルディスカッション 1

11月4日(土) 15:30 - 18:00 第4会場 [553教室]

## 第27回多文化間精神保健専門アドバイザー資格研修会 (※)

[※ 専門アドバイザー資格取得あるいは更新のための受講が必要です]

### 「なぜ臨床に文化が必要なのか？—臨床人類学入門」

座長：東畑 開人 (慶應義塾大学社会学研究科)

北中 淳子 (慶應義塾大学 文学部 / 社会学研究科)

鷗川 晃 (大正大学 社会共生学部 公共政策学科)

#### 【趣旨・狙い】

多文化間専門アドバイザー資格研修会でもある、本ラウンドテーブル・ディスカッションでは、精神医学・臨床心理学・医療人類学を含むさまざまな立場から、なぜ臨床を実践するにあたって「文化」が必要なのかについて皆で考えてみたい。多文化臨床・研究班のメンバーやオーディエンスも含めて、「多文化」の視点からアプローチし、「文化的感受性」や「構造的な能力」といった概念を臨床に採り入れることで、どのように新たな視座が得られるのかについてディスカッションを行いたい。

#### 1-1 臨床人類学のゆくえ

江口 重幸 東京武蔵野病院

#### 1-2 文化的感受性のある治療文化を耕す

近藤 伸介 東京大学 医学部附属病院 精神神経科

#### 1-3 精神科医療における文化の重要性

鈴木 航太 厚生労働省 精神・障害保健課 / 自殺対策推進室

#### 1-4 地域精神医療における文化の視点

野口 正行 岡山県精神保健福祉センター

#### 1-5 産業心理臨床と文化の視点

村上 裕子 新東工業株式会社

# ラウンドテーブルディスカッション 2

11月5日(日) 10:05 - 12:05 第3会場 [552教室]

## 「難民・避難民の急増に対してメンタルヘルスの専門家はどのように立ち向かうべきか」

座長：浅井 逸郎 (医療法人社団ハートクリニック)

鶴川 晃 (大正大学 社会共生学部 公共政策学科)

### 【趣旨・狙い】

令和4年末、在留外国人数（中長期在留者、特別永住者）は307万5,213人となり前年末に比べ11.4%増加した。この背景には国内の人手不足という課題があり、現在、総人口に占める在留外国人数は2%程度であるが、2070年には10%を超えると言われている。一方、難民認定制度が施行された昭和57年から令和4年までの難民認定申請者数は91,664人、そのうち何らかの在留資格を得て国内に在留する難民・避難民（定住難民、条約難民、その他庇護、シリア人留学生）は17,835人となっている。さらに世界に目を向けると紛争や迫害で故郷を追われた人は1億840万人となり、令和3年度から4年度にかけての1年間で1,910万人増加している。この人数の半分以上がシリア、ウクライナ、アフガニスタン出身者である。

世界の分断が深まり国内における少子高齢化が加速する中、この先も日本国内において難民・避難民、移民の数は増え続けるだろう。そして移住後、異文化適応から生じる心の病い、母国でのトラウマ体験によりメンタルヘルスを求める人々が増え、精神医療専門家は日常の診療において外国籍の人々と接する機会が増えることが予測される。

しかしながら、精神医療に携わる専門家たちは在留外国人についての制度の理解（法律）、他言語対応（言葉）、彼らの慣習の知識（文化）などの不安要素に加え、医療費の未払い問題などにより、彼らのケアに携わることを躊躇してしまうのが現状である。

このラウンドテーブル・ディスカッションの目的は、いま日本に暮らす難民・避難民、そして移民らのメンタルヘルスケアに携わっている専門家らが経験を共有することにより、医療制度の革新、専門家らのネットワークの構築を目指すものである。まず難民・避難民のメンタルヘルス支援、さらにはリサーチに携わった経験のある医師、ソーシャルワーカーから問題提起をいただき、オーディエンスとの活発な議論を展開したいと考えている。

### 2-1 シリア難民留学生の適応支援

上里 彰仁 国際医療福祉大学 基礎医学研究センター

### 2-2 在留外国人のメンタルヘルス ―精神科救急の臨床現場から―

花岡 晋平 千葉県総合救急災害医療センター（千葉県精神科医療センター）

### 2-3 世界の動き

秋山 剛 NTT 東日本関東病院

### 2-4 難民・避難民の医療支援と課題

石川 美絵子 社会福祉法人日本国際社会事業団



# ラウンドテーブルディスカッション 3

11月5日(日) 13:00 - 14:30 第3会場 [552教室]

## 「留学生支援における現状と課題の共有—多文化理解と多職種連携強化のために」

司会・話題提供： 渡辺 暁里 (国際基督教大学カウンセリングセンター)

話題提供： 佐々木清子 (上智大学)

### 【趣旨・狙い】

2008年に文科省により「留学生30万人計画」が策定されて以降、日本における外国人留学生は急速に増加した。この受け入れ目標は前倒しで達成され、政府は新たに2033年までに40万人の受け入れを目標にすることを表明している。国内の少子化問題に加えて、不安定な世界の政治経済状況や欧米大学学費高騰化の影響下で、我が国の留学生受け入れ数は、今後も増加を続けるであろう。留学生のうち、学部・大学院を卒業後に日本国内で就職する者は約3割と言われており、コロナ禍で一旦減少したものの、今後は日本定住者を目指して留学する学生も増えると予測されている。

発表者らは都内大学学生相談室にて留学生の心理的支援に従事するなかで、昨今の留学生の多様化に接するとともに、危機介入を含む支援の深刻化に直面している。異文化適応ストレスに発する精神症状に加え、昨今では母国での精神科治療継続を前提に来日する留学生も増加している。また、青年期に属する多くの留学生の発達の課題が、日本社会で展開する上での困難もある。留学生支援には、他の外国人支援とは異なる特徴もあり、地域連携のあり方には創造的な解決策が求められている。

今回の企画の目的は、多様化する留学生のメンタルヘルス上の問題や留学生支援の現状と課題を共有しつつ、それぞれの現場でオーディエンスが関わる留学生支援に関する意見交換をしつつ、留学生支援の相互理解を深め、多職種連携を強化する機会とすることである。さらに、留学生と他の外国人移住者や難民との違いを明確にし、彼らに特有なメンタルヘルス上のニーズを挙げ、留学生支援の特徴の理解を共有したいと考えている。当日は、留学生の支援にかかわる様々な専門職ならびに関係者からの活発な意見交換を期待している。

第30回 多文化間精神医学会学術総会 **協賛（寄附） 団体**

---

医療法人清和会鹿沼病院

医療法人社団松籟会宇都宮西ヶ丘病院

社会医療法人北斗会 さわ病院

医療法人高柳会 大平下病院

メイトクリニック鶴見

医療法人グリーンエミネンス

第30回 多文化間精神医学会学術総会 **協賛（広告） 医療法人・企業一覧**

---

医療法人グリーンエミネンス

大塚製薬株式会社

住友ファーマ株式会社

武田薬品工業株式会社

ヤンセンファーマ株式会社

吉富薬品株式会社

(50音順、敬称略)

第30回多文化間精神医学会学術総会を開催するにあたり、上記の団体・企業の皆様から、ご協賛およびご後援をいただきました。

ここにご芳名を記し、深く感謝の意を表します。

第30回 多文化間精神医学会学術総会

会 長 桂 川 修 一

一緒に歩こう、笑顔へ続く道。

# All for your smile

子どもの自閉スペクトラム症・うつ病・双極性障害(躁うつ病)・統合失調症の患者さん、ご家族、そして支援するみなさまの笑顔のために。大塚製薬は、これからも精神医療に貢献していきます。

All for your  
smile

こころの健康情報局

## すまいるナビゲーター



こころの健康情報局「すまいるナビゲーター」は、患者さんやご家族を対象に、子どもの自閉スペクトラム症・うつ病・双極性障害・統合失調症について、お役立ていただける情報を発信するサイトです。

子どもの自閉スペクトラム症

うつ病

双極性障害

統合失調症

すまいるナビゲーター

検索

<http://www.smilenavigator.jp/>



Otsuka 大塚製薬株式会社

Otsuka-people creating new products for better health worldwide



# なんとかかしたい。 だから、挑む。

人類の歴史にはさまざまな挑戦者がいた。どんなに失敗しても、彼らの熱意や想いが何度も立ち上がらせ、その結果、常識を打ち破り新しい世界を見せてくれた。医薬はどうだ。空を自由に飛び、宇宙にまで届く時代に、私たちの体の中には未解決の課題が山積している。私たちにはやるべきことがある。助けなければならない人がある。だから、挑む。住友ファーマは、精神神経領域およびがん領域を重点疾患領域とし、これまで紡ぎあげてきた当社の経験と知識を最大限生かせるこれらの領域において、引き続き、医薬品、再生・細胞医薬、非医薬等の研究開発に挑み続けます。

 **Sumitomo Pharma**  
Innovation today, healthier tomorrows



詳しくはこちら



## Better Health, Brighter Future

タケダは、世界中の人々の健康と、  
輝かしい未来に貢献するために、  
グローバルな研究開発型のバイオ医薬品企業として、  
革新的な医薬品やワクチンを創出し続けます。

1781年の創業以来、受け継がれてきた価値観を大切に、  
常に患者さんに寄り添い、人々と信頼関係を築き、  
社会的評価を向上させ、事業を発展させることを日々の行動指針としています。

武田薬品工業株式会社  
[www.takeda.com/jp](http://www.takeda.com/jp)





# ヤンセンが目指すのは、 病が過去のものになる未来を作ることです。

世界のすべてが、私たちの研究室。  
病と懸命に闘う患者さんのために、  
高い科学技術、独創的な知性、  
世界中の力を合わせ、新しい可能性を切り拓く。

すべては、私たちの解決策を待つ、ひとつの命のために。  
複雑な課題にこそ挑んでいく。  
新しい薬を創るだけでなく、それを最適な方法で提供する。

革新的な薬や治療法を、届ける。  
世界中に、私たちを待つ人がいる限り。


誰もが健やかに、いきいきと暮らす社会。  
そんな「当たり前」の願いのために、  
自ら変化し、努力を続けます。

**Janssen**  
PHARMACEUTICAL COMPANIES OF  
*Johnson & Johnson*

ヤンセンファーマ株式会社

[www.janssen.com/japan](http://www.janssen.com/japan)

[www.facebook.com/JanssenJapan](https://www.facebook.com/JanssenJapan)



精神科医療の  
真のパートナーを  
目指して

 田辺三菱製薬グループ



吉富薬品株式会社

大阪市中央区道修町3-2-10

<https://www.yoshitomi.jp/>

心を見つめる、をずっと。

Since 1929

\*写真は、当法人の創設者 中村古峡が実際に使用していたドクターズバッグ



## 中村古峡記念病院

外 来 / 心療内科・精神神経科・レディース外来・整形外科・内科・放射線科・リハビリテーション科  
入 院 / 認知症治療 60 床・精神科療養 180 床  
その他 / 訪問診察（認知症）・訪問看護・重度認知症デイケア・精神科デイケア

医療から、介護まで。  
これまでも、これからも。

## うらら 介護医療院

古峡ヒルズ サービス付き高齢者向け住宅  
定期巡回・随時対応型訪問介護看護

## うらら 在宅介護支援センター

## 千葉市あんしんケアセンター

総合支援課では、医療福祉相談も受け付けております。

TEL 043-376-8341

医療法人グリーンエミネンス

〒260-0844 千葉県千葉市中央区千葉寺町 188  
TEL 043-261-3336 (代表) <https://www.green-eminence.com/>